

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成21年12月3日(木) 11:05~12:15
- 場 所 合同庁舎4号館742会議室
- 出席者 津村政務官、相澤議員、奥村議員、白石議員、今榮議員、青木議員、金澤議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官
- 議事概要

議題1. 独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動に関する所見について

<橋本企画官、重富企画官、有松参事官説明>

- (相澤議員) ◇ 多少の修正はありうるが、この内容を、平成20事業年度の独立行政法人、国立大学法人等の科学技術関係活動に関する所見として御承認いただいたこととする。

議題2. 優先度判定等について

<須藤参事官説明>

- (相澤議員) ◇ 資料について御意見がある場合には、後ほど御提出いただきたい。

議題3. 最先端研究開発支援プログラムについて

<二村参事官説明>

【支援規模及び支援件数】

- (今榮議員) ◇ 今回のプログラムは若手を対象にした部分があるため、大学の全研究者に占める女性の比率と比較して決めるのは、女性にとって割が合わない。女性研究者を元気づけるためのものなのだから、現状の15%よりは増やすべきであり、30%の案を支持したい。
- (青木議員) ◇ 同感である。現状は15%なので、倍の30%にするというのは説明としてわかりやすい。
- (白石議員) ◇ 最初に30%ありきということにすると、選考結果が出たときに、「これが先端的か」という批判が出てくる可能性がある。そこをどう工夫するかということも考えるべき。
- (奥村議員) ◇ 今回の応募は、PIであることを前提にしており、その中に女性がどれだけいるのかはわからない。数字には裕度を持たせておくべき。
- (今榮議員) ◇ 30%という目標値は、実際に選考してみたら25%になるということもあり得るような形で設定してもらえればよい。
また、PIについては、若い方で非常にいい仕事をしている女性がたくさんいるが、PIの条件を厳しくしてしまうと、その応募資格のところで落とされてしまう。この点についても考慮していただきたい。
- (津村政務官) ◇ 元々この話が出てきたのは、1000億円のプログラムで選ばれた中心研究者が

全員男性であったこととのバランスという面もある。新規プログラムで女性の比率を30%にしても、全体では少ないので、ここは30%でいいのではないか。

- (相澤議員) ◇ 目標値は30%に設定し、仮に最終的に30%に達しなかった場合には、例えば、応募者が何人いて、基準に基づいて選定したところ25%になったということを説明することとする。

【選定手順】

- (津村政務官) ◇ 全体1500億円の中で、若手・女性・地域にバランスをとっていこうということなので、案4の「都道府県毎に最低1件」というのは分かりやすいし、メッセージ性がある。
- (白石議員) ◇ 案4で異存はないが、セカンドティアに当たる大学を評価する観点から、案3を加味するというのはいりうのではないか。ただし、5件は少なすぎる。
- (金澤議員) ◇ 案4で十分である。あまり最初から細かいことを言わなくとも、いろいろな配慮をするということでもいいのではないか。
- (相澤議員) ◇ 案4をとった場合に、都道府県毎に最低1件ということ以外に許容される部分もあり得るので、そこで今指摘されているような地域性を考慮するということとしたい。

【対象とする研究】

- (相澤議員) ◇ 対象とする研究については、後ほど、文書で御意見いただきたい。

【実施体制】

- (相澤議員) ◇ 新規プログラムの運営の母体がどこにあるのかがわかるよう、次世代プログラム運営会議（仮称）を設置し、この会議が対外的に出る形にすることとする。

【その他】

- (相澤議員) ◇ 研究対象の指定について提出された意見を基に、火曜日の常勤議員会合において方向性を決定し、研究者や関係機関等からの意見聴取を開始することとする。

(以上)